

中国四国医師会連合常任委員会

とき 平成14年3月31日(日) 午後6時
ところ 山の上ホテル(千代田区神田駿河台)

日医代議員会の前日、恒例で行われる中国四国医師会連合常任委員会は高知県医師会の担当で開催された。

まず委員長の村山博良高知県医師会長から担当県として本日で無事終了するが、ご協力に感謝する旨挨拶があった。

中央情勢報告としては村上郁夫日本医師会理事・愛媛県医師会長、真田幸三日本医師会理事・広島県医師会長、中島雪夫日本医師会監事・島根県医師会副会長から、政府は29日の閣議で規制改革推進3カ年計画の改定を決め焦点となっていた医療機関経営への株式会社参入について、「株式会社方式」の文言を「民間企業経営方式」に書き換えさせた旨報告があった。

協議事項として、①日本医師会役員等推薦の件は、中国四国ブロックより、理事として長田鳥取県医師会長、形見香川県医師会長、裁定委員に諫見氏をあてることを確認した。

②代表・個人質問に関して、代表質問は、末長敦代議員(岡山県)の「診療制度改革に対する日本医師会の取り組みについて」、個人質問は、青山喬代議員(広島県)の「診療報酬の再改定について」、碓井静照代議員(広島県)の

「診療報酬引き下げへの日医の対応について」、久野梧郎代議員(愛媛県)の「診療報酬改定について」とした。

③予算委員の件は、予算委員には沖田瑛一(島根県)、藤原淳(山口県)、永野健五郎(高知県)の各代議員をあてることとした。

④次期中国四国医師会ブロック当番県医師会の件は、規約に従い、平成14年度は鳥取県医師会に決定した。

なお、今期限りで退任される古瀬章島根県医師会長から感謝の挨拶と新会長を就任する中島雪夫島根県医師会副会長が抱負を込めた挨拶を行った。

14年度第1回中国四国医師会連合常任委員会

4月1日(月)午前9時から、日本医師会館で新年度第1回中国四国医師会連合常任委員会が、本日より担当の鳥取県医師会のもと開催された。長田昭夫会長の挨拶後、大石徹議事運営委員が本日の日程説明を行い、会長候補者など両陣営からの挨拶を受けた。

中国四国ブロック当選役員祝賀会

4月1日(月)午後6時から、山の上ホテルで立食パーティ形式の中国四国ブロック当選役員祝賀会が、当番県の鳥取県医師会の肝煎りで開催された。

日医理事に当選した長田昭夫鳥取県医師会長、形見重男香川県医師会長は、本日の選挙結果を踏まえ「中四国医師会皆さん方の声を提言して、これからの日医の良い歩みをしてもらいたいため、旗手であると思っていますのでご後援賜りたい。5月の中四国医師会連合総会の分科会では皆で考えた大きな問題を日医の常任理事にぶつけて提言をする会にしたい。」ブロックの先生方の支持がなければ、またその人たちの要望をしつかり日医が把握しておかなければつまみづかいがないのだということを含めて今度の選挙でよく分かったのだ。われわれ2年間先生方のご指導を受け一生懸命やりたいと思っているのでご支援をお願いする。」とそれぞれ抱負を述べた。

第2回中国四国医師会連合常任委員会

4月2日(火)午前9時30分から、日本医師会館で第2回中国四国医師会連合常任委員会が開かれた。大石議事運営委員から本日の議事運営につき報告があった。質問は1人2回まで、関連質問は基本的には認めるが時間の都合上議長の判断によることとなった。